

令和7年度 教育指導の重点及び学校経営計画

学校番号	56	学校名	益田清風高等学校
------	----	-----	----------

社会的役割等 (スクール・ミッション)	多様な学びの選択が可能な下呂市唯一の高校として 地域と連携した探究的な学びを通して 挑戦し続ける心と、自ら考え行動し地域社会に貢献できる力の育成を目指す学校		
学校教育目標 (教育方針)	【教育目標】 理想を掲げ、主体的に考え行動できる、心豊かでたくましい精神をもった人間の育成を図る。		
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【G P】	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会の一員としての自覚を持ち、自ら学び、考えることを通じて、進展する社会に主体的に対応できる生徒</li> <li>一人一人の興味・関心や能力・適性を活かし、豊かな創造力を培い、生涯にわたってグローバルな視点で学習できる生徒</li> <li>地域の人々に対する思いやりやふるさとの文化や自然を愛する心を育み、多様な人々の互いの人格を理解し、協働して課題解決ができる生徒</li> </ul>	
	生徒をどう 育てるか 【C P】	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題発見力・課題解決力を育成するための多彩な科目による「主体的・対話的で深い学び」や「探究的な学び」の推進</li> <li>地域と連携し、他者と協働できる豊かな人間性を育む「探究的な学び」や教科学習、ICTの活用による、コミュニケーション能力と発信力の育成</li> <li>将来のキャリア形成につながる幅広い基礎的学力を身に付け、生徒の個性や長所を伸ばし、深い学びを実現するためのカリキュラムの編成と個々に応じた細かな指導の実施</li> </ul>	
	どんな生徒を 待っているか 【A P】	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学校で学んだ基礎学力の上に、各自の心身の発達及び進路に応じて、より高度な学力を身に付けたい生徒</li> <li>お互いの個性を認め、異なる文化や歴史を尊重できる豊かな感性や、たくましく生きるための力を身に付けたい生徒</li> <li>地域と連携した探究活動等の多様な活動に取り組むことを通じて、理解力、思考力、協働力、探究力を身に付けたい生徒</li> </ul>	

学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の歴史や文化、産業について情報提供が足りず実践的なスキルを学ぶ機会が限られている。地域住民や専門家を講師に招き、幅広い知識を提供することが必要です。</li> <li>職場体験やインターンシップの機会が不足し、地域課題解決プロジェクトへの参加が少ない状況です。地域の企業や団体と連携し、実践的な経験を積む機会を増やすことが必要です。</li> <li>地域行事やボランティア活動への参加が少なく、リーダーシップ育成の機会を逃している。地域社会の一員として自覚し、リーダーとして活躍できるよう促進することが必要です。</li> <li>学校の取り組みを発信する広報活動やメディアを活用した連携が不十分である。ウェブサイトやSNSを活用した情報発信などメディアとの連携を強化することが必要です。</li> <li>異なる年齢層の生徒同士の交流を充実させるために、中学生との合同企画や高校生による学習支援を通じて小中学生の高校進学への意欲を高める。同時に高校生の社会性を育てることが必要です。</li> </ul>		
----------	---	--	--

教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標	
	学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>育みたい資質・能力を引き出せる観点別評価の実践と授業改善をする。</li> <li>「個別最適な学び」と「協働的な学び」をICT活用によって、一体的に充実させる。</li> </ul>	
	進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己のあり方、生き方を考え、主体的に進路を選択できるよう、計画的、組織的に生徒を支援する。</li> <li>ICTを活用し、キャリア教育及び基礎学力の向上を推進する。</li> </ul>	
	生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>自他の人権や生命を尊重する意識の確立を促進する。</li> <li>問題行動等の未然防止と事後指導の充実を図る。</li> </ul>	
	特別活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事、部活動、生徒会活動を通じた主体性の育成と、課題解決能力を育成する。</li> <li>学校と地域のつながりを大切にし、地域から信頼される学校を目指す。</li> </ul>	

年度目標				年度末評価(自己評価)			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	県教育振興 基本計画での 位置付け	達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合 評価 A. B. C. D
学習指導	①地域との連携や教科横断的な学び、地域の様々な教育資源等を活用し、生徒の探究心の高揚や進路選択につながる実践を推進します。	施策Ⅰ-4	①地域との連携授業や探究的な学びの実践における満足度の割合や進路選択実績。	①・③様々な提案や地域資源を活用した実践を学科単位で取り組む。生徒の様々な学びが、地域社会への貢献につながり、進路選択につながる循環になりつつある。 ②ICT機器の活用により、知識・技能の定着、グループワークを通じた思考力・判断力・表現力の育成につながる授業の実践を推進。利活用促進のため環境整備も組織的に実施。 ③定期考査毎に授業評価アンケートを実施、生徒の学習実態を把握。アンケート結果から指導の改善を常に意識して授業実践に取り組む。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域資源を活用した実践は、生徒一人ひとりの進路選択の幅を広げるとともに、郷土愛の醸成にも大きく寄与していることが、アンケート調査や進路志望動機から読み取れる。</li> <li>より主体的で個別最適な学びを実現するため、身近で伴走的に活用できるICT機器として、生成AIや学習支援ツールを日常の学習活動の中でどのように取り入れていくか検討したい。</li> <li>継続的に実施する授業評価アンケートを通して、組織的に授業改善に取り組み、授業の一層の充実を図りたい。</li> </ul>	B
	②個々の生徒が主体的に目標に向けて深く学ぶ学習支援と集団ならではの学びをICT機器の活用によって一体的に充実させることで学びの深化をはかります。	施策Ⅱ-8	②ICT機器を活用した授業実践と学びの満足度の高さ。				
	③学校運営や教育活動を、学校運営協議会の提言をもとに地域と一体となって進めることにより、「地域とともにある学校づくり」をより一層推進します。	施策Ⅳ-20	③地域と一体となって進めた各種の教育実践の実績や教育活動の満足度。				
	④「育みたい資質・能力を引き出せる観点別評価の実践と授業改善」として、生徒の能力を最大限引き出す評価方法について研究し、評価から指導の改善に取り組みます。	施策Ⅳ-26	④教員間での相互研修の実績と改善の定着度、授業評価アンケートによる授業満足度。				
進路指導	①多様な進路に対応できるよう、各種説明会の開催やICTによる情報提供など、ガイダンス機能を充実させます。	施策Ⅱ-13	①生徒、保護者アンケートの結果	①計画通りに各学年でガイダンスを実施できた。 ②学校生活で、自分の良い点をどのように生かしたか、どんな部分が成長したかを振り返らせることで、自らの強みを自覚し生かせるよう工夫した。 ③各学年のガイダンスに、必ず地域と連携した取組を入れ、地域で働き、生活することの魅力を伝えた。 ④ICT教材を利用し、義務教育範囲の学び直しを行い、一定の成果をあげた。	B	今年度より、全校一斉にICT教材(Classi)を導入した。Classiを利用し、キャリア・パスポートをデジタル化することで、効率的に、より内容の深い振り返りを行い、蓄積することができている。今後は、それを進路や、自分の生き方にまで生かしていけるよう工夫する必要がある。また、ICT教材を利用した学び直しを実施したところ、例年に比べ、明らかに基礎学力が向上した。今後は、さらに工夫した利用法を考え、大学進学等に向けた学習にも生かしていきたい。地域の関係機関との連携も良好なため、今後も更に連携を深めていきたい。	B
	②ICT教材及びキャリア・パスポートを活用し、学校生活を通じ、進路及び卒業後のキャリアに必要な能力を養成します。	施策Ⅱ-13	②キャリアパスポートの活用度、内容の充実度				
	③地域の関係機関と連携し、職場体験学習や地元企業ガイダンスなどを実施し、広い視野をもって地域に貢献する資質を養成します。	施策Ⅱ-13	③生徒及び関係機関へのアンケート結果				
	④進路実現に向けて、ICT教材を活用し、基礎学力の充実及び個別最適な学びを推進します。	施策Ⅱ-8	④模擬試験等の結果及び進路実績				
生徒指導	①様々なアンケートや生徒観察から得た情報を職員間で共有し、いじめ等の未然防止と早期発見・早期解決に努めます。	施策Ⅰ-3	①9月までに認知されたいじめの年度内解決100%	①年間3回のスマホ自己管理週間を実施することで、生徒がスマホを節度を守って使用し、情報モラルを意識した生活を送るための指導を行った。 ②年5回のいじめに関するアンケートを実施し、生徒からのSOSに対して常にアンテナを張り、大きいじめになる前に対処することができた。また、11月には情報モラルLHRを実施し、情報モラルにおけるリスクとその確率について考える授業を行った。 ③いじめ問題や不登校傾向のある生徒について、積極的に外部専門家と協力し、助言を仰ぐことで、生徒の生活の改善につなげることができた。 ④夏スタイルの際の制服の着こなしに関して、初めて弾力的な運用を開始した。	B	令和8年度以降、学校でのスマホの管理を自己管理へと変更する予定である。それに際して、生徒が正しくスマホと向き合えるように、生徒会とも協力し進めていく必要がある。 本校では情報モラルに関する問題がほとんど起きてはいないが、それに油断することなく、さらなる未然防止教育を進めていく必要がある。 他者との関わり方が非常に苦手である生徒の割合が増えているように感じられる。いじめ問題に発展する前に、生徒同士のコミュニケーション力の育成に力を入れていく必要性を感じる。	B
	②「自らの命は自ら守る」という自助の意識を醸成するため、災害安全・交通安全・情報モラル等の安全教育に努めます。	施策Ⅲ-19	②命を守る訓練・情報モラル講話・情報モラルLHRの実施。登下校指導における注意喚起および、自転車利用時におけるヘルメット着用の推進。				
	③教材や外部人材を有効活用しながら、消費者教育の充実を図ります。	施策Ⅱ-12	③消費者講話の実施				
	④不登校傾向のある生徒への支援に向け、安心できる学校環境の整備に努め、SCやSSW等の外部の専門家を積極的に活用し、早期発見・早期対応を推進します。	施策Ⅰ-3	④不登校生徒(年間30日以上)の欠席者のうち、学校内外の専門機関等で誰かに相談した生徒の割合100%				
特別活動	①文化祭への取組を通して、生徒が自発的、自治的に考えて行動できるように支援します。	施策Ⅰ-1	①行事の取組が生徒主体で行われており、自ら考え、絶えず変革しようとする姿勢が見られる。	①学校行事を成功させようとする生徒会執行部の姿が、全校生徒の良い手本となっている。また、部活動では生徒たちは心身を鍛錬し、人間的にも大きく成長している。 ②生徒会行事に向けた活動を通じて、生徒たちがお互いを高め合い、協力して取り組むことができています。 ③環境厚生課が中心となって、生徒会として暑中見舞い・年賀状送付などの福祉活動と連携した活動を行っている。	B	①今年度より身だしなみの新ルールがスタートした。総務課を中心とした全校生徒への啓発活動を継続していきたい。 ②生徒会行事が成功したことで、クラスとしての団結力が高まった。行事への取組を通して学んだことを、今後の学校生活へ繋げていきたい。	B
	②LHRを活用し、主権者教育・消費者教育の機会を学年単位で充実させることで、地域社会の一員としての自覚と責任を深められるよう支援します。	施策Ⅱ-12	②地域社会の一員としての自覚が生徒に見られ、自らの行動に責任がもてる。				
	③球技大会への取組を通して、生徒が自発的にスポーツに参加し、クラスで一致団結する姿勢を育み、健全な体づくりができるよう支援します。	施策Ⅲ-16	③自発的にスポーツに取り組み、行事を通してクラスの親睦を深めることができています。				
	④部活動への自主的な取組を通して、生徒が自ら成長できる機会と実感が得られるよう支援します。また、地域との連携を意識して活動します。	施策Ⅳ-25	④部活動への取組が生徒主体で行われており、部活動を通して成長しようとする姿勢が見られる。				

来年度に向けての改善方策等 実施日：令和8年 1月29日

<ul style="list-style-type: none"> <li>①ICT・生成AIを用いた授業改善の体系化                         <ul style="list-style-type: none"> <li>ICTや生成AIの具体的な活用方法を明確にし、日常授業に定着させる。</li> </ul> </li> <li>②キャリア教育と地域連携の深化                         <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル化したキャリア・パスポートを進路指導に直結させる。</li> </ul> </li> <li>③スマホ自己管理への移行準備と情報モラル教育の強化                         <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会と協力したルールづくりを推進し、啓発活動を実施し、段階的に自己管理へ移行する。</li> <li>未然防止の視点で、情報モラル指導を継続強化する。</li> </ul> </li> <li>④ コミュニケーション力育成                         <ul style="list-style-type: none"> <li>他者と関わりが苦手な生徒への支援を強化し、協働的な活動を計画的に取り入れる。</li> </ul> </li> <li>⑤ 生徒会活動・学校文化の定着                         <ul style="list-style-type: none"> <li>新しい身だしなみルールの定着を促す啓発を継続する。</li> <li>行事で培った協働力や主体性を、日常の学校生活へ活かせるよう支援する。</li> </ul> </li> <li>⑥ 中学生と積極的な連携活動を実施し積極的な広報活動                         <ul style="list-style-type: none"> <li>中学生と協働活動を実施し、魅力ある高校生の姿をしめす。</li> <li>CCN(ケーブルテレビ)と連携し、年間を通して各学科の取組を紹介し、市民に魅力を伝えよう努力する。</li> </ul> </li> </ul>
--

学校関係者評価 実施日：令和8年1月29日

<ul style="list-style-type: none"> <li>①学習成果発表会について(全体)                         <ul style="list-style-type: none"> <li>今回の学習発表会は、生徒にとって「学びを社会に向けて発信する」大きな機会となった。</li> <li>地域の方々や専門家から直接見てもらえる場があったことで、生徒のアイデアが単なる思いつきではなく、社会で役立つ提案へと変わっていく様子を感じられた。</li> <li>空き家活用やSNSによる情報発信など、地域課題に関心事として捉え、豊かな発想を評価された。</li> <li>単なる現状分析に留まらず、調査や研究を通して具体的な解決策を提示するプレゼンテーション能力が身に付いていると感じた。</li> <li>YouTube配信について、委員から中学校の校長会を通じて中学校の授業内での視聴するよう具体的な通知がされた。</li> <li>市の広報誌の1コーナーでレシピ紹介する提案や、市長への直接提案、商品化へのルート構築など、教育活動を社会へ繋げられるよう、委員から提案された。</li> </ul> </li> <li>2防災炊き出し訓練の計画について                         <ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度の教員主導運営ではなく、生徒が主体となって地元企業(精肉店等)へ直接、食材提供の交渉に赴くなどしている。</li> </ul> </li> </ul>
--